

2025年（令和七年）

7月11日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（7月3日～9日）の国際石油市場は、OPECプラスの増産合意（5日）はあったものの、イエメンのフーシの船舶攻撃（7日）による緊張の高まり、また、米国の関税政策の行方、好調な米国需要等の要因で、概ね堅調に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、7月3日、3日ぶりの反落の67.00ドルで始まり、週末4日の米国独立記念日を経て、連休明け7日反発、8日続伸、9日三日続伸の68.38ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（8月渡し）も、前週（6月26日～7月2日）は67.60～68.30ドルの範囲で推移したが、当週は、7月3日69.50ドル、4日69.40ドル、7日69.20ドル、8日70.40ドル、9日70.90ドルだった。

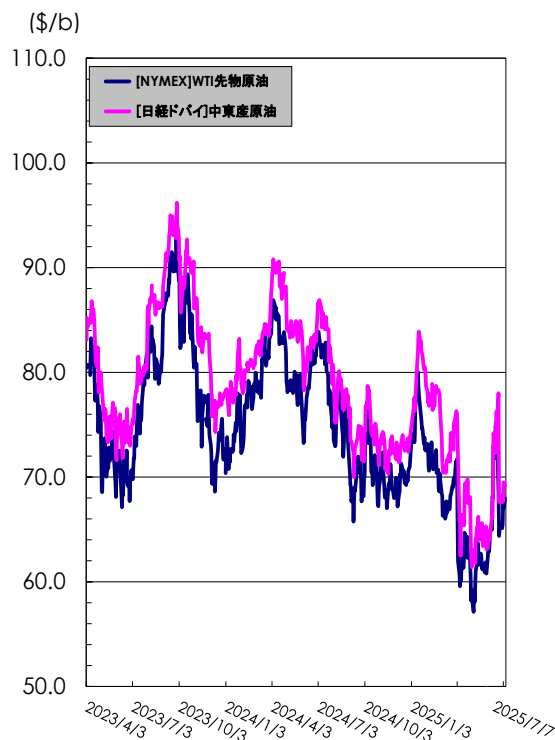
対ドル為替レート（TTM）は前週（6月26日～7月2日）143.69～144.81円の範囲で推移したが、当週は、7月3日143.64円、4日144.63円、7日144.41円、8日146.09円、9日146.89円だった。

財務省が7月8日に発表した貿易統計（速報・旬間）による

と、6月中旬の原油輸入平均CIF価格は63,121円/KLで前旬比993円/KL安、ドル建てでは69.89ドル/Bで前旬比0.80ドル/B安、為替レートは1ドル/143.58円。

そのような中で、7月7日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.6円安、軽油も同0.6円安、灯油は同6円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は173.6円だった。7月10日～16日、燃料油補助金の支給額は、ガソリン・軽油の場合定額10.0円（前週比据え置き）、灯油・重油の場合定額5.0円（同据え置き）となった。

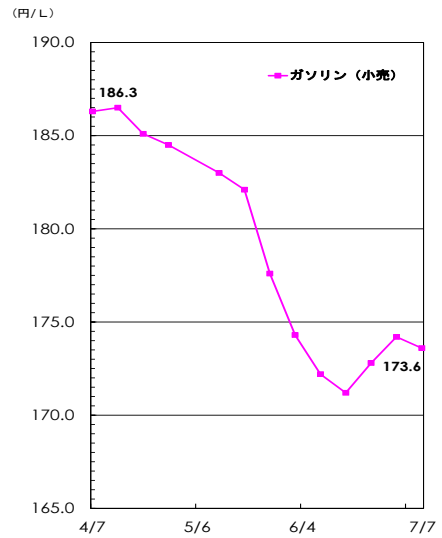
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量（千kl）	6/29～7/5	2,357 ▲42	▲ -
	トッパー稼働率（%）	"	68.1 ▲1.2	▲ -
	原油在庫量（千kl）	7/5	12,134 ▼-154	▲ -
価格	中東産原油（日経バイ）（\$/bbl）	7/7	69.20 ▲1.20	▼-17.1
	WTI先物原油（NYMEX）（\$/bbl）	7/7	67.93 ▲2.82	▼-14.4
	原油CIF単価（\$/bbl）	6月中旬	69.89 ▼-0.80	▼-18.05
	①原油CIF単価（¥/kl）	"	63,121 ▼-993	▼-23,507
	②ドル換算レート（¥/\$）	"	143.58 ▲0.61	▲13.04
	外国為替TTSレート（¥/\$）	7/7	145.41 ▲0.40	▲16.36



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	7/5	1,644 ▼ -22	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/1 ~ 7/7	78.0 ➡ 0.0	▼ -5.0
		(TOCOM/中部) 7/7	78.0 ▼ -2.0	▼ -4.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/7	173.6 ▼ -0.6	▼ -2.6

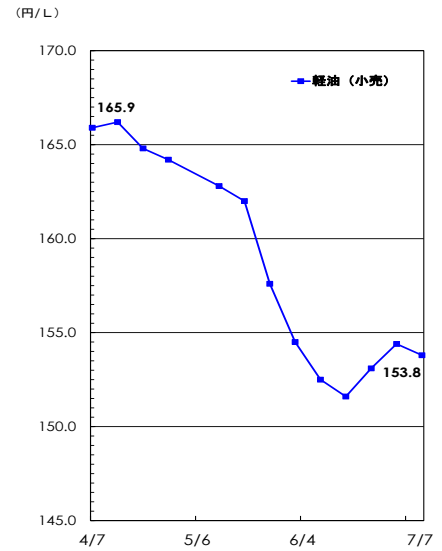
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

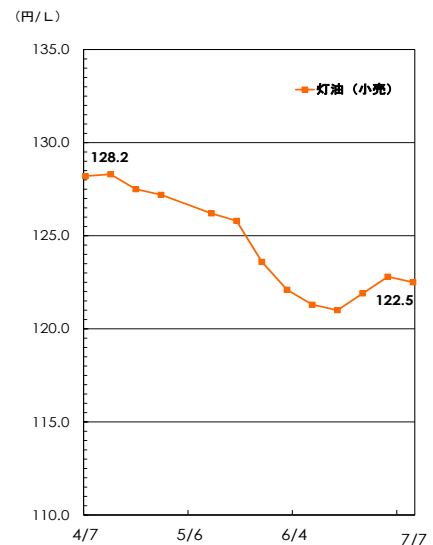
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	7/5	1,658 ▲ 61	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/1 ~ 7/7	81.4 ➡ 0.0	▼ -4.8
		(TOCOM/中部) 7/7	- -	- -
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/7	153.8 ▼ -0.6	▼ -2.0

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	7/5	2,079 ▼ -20	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/1 ~ 7/7	81.0 ➡ 0.0	▼ -1.1
		(TOCOM/中部) 7/7	82.0 ➡ 0.0	▼ -1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/7	122.5 ▼ -0.3	▲ 4.7



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（6月26日～7月2日）のNYMEX・WTI先物市場は、65.11～67.45ドルの範囲で推移した。

当週7月3日は、前日、米国・ベトナム間の関税協議が合意されたものの、主要貿易相手国との関税協議の難航懸念が高まり、また、6日開催予定のOPEC有志8か国会議における更なる減産緩和（増産）合意観測、さらに、前日高値のポジション調整もあり、3日ぶりに反落した。ただ、相変わらず好調な米国経済指標の発表もあり、底値は固かった。8月物終値は前日比0.45ドル安の67.00ドル。

週末4日は、米国独立記念日につき、休場。

三連休明け7日は、一日前倒しで実施された5日のOPECプラス有志8カ国によるWEB協議で、8月の予想を上回る54.8万BD（5～7月は41.1万BD）の増産合意で、売りが先行したが、米国のドライブシーズンの好調な石油需要などを背景に、供給が増加しても順調な需要が続くと見られ、また、紅海では6日イエメンの親イラン組織「フーシ」が商船を攻撃し、緊張が高まったこともあり、反発した。8月物終値は前営業日比0.93ドル高の67.93ドル。

8日は、前日イスラエルがイエメンのフーシを報復攻撃、緊

張が高まるとともに、欧米の複数製油所の事故・産油国からの供給低下を背景に、米国の軽油在庫が約30年ぶりの低水準を記録、さらに、米国エネルギー情報局（EIA）が、短期見通しで、米国の来年度の石油生産量を下方修正、続伸した。8月物終値は同0.40ドル高の68.33ドル。

9日は、引き続き、米国を中心とする世界の石油需要の堅調さ、フーシをめぐる軍事的衝突等中東情勢の緊張、米国関税政策の不透明さなどを反映し、わずかに三日続伸した。なお、この日発表の米国石油在庫週報は、原油は積み増し、ガソリン・中間留分は取り崩しで、まちまちの結果となった。8月物終値は0.05ドル高の68.38ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の、7月9日発表の4日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比710万バレル増と市場予想（210万バレル減）に反する積み増しとなったものの、ドライブシーズンを反映してガソリン在庫は同270万バレル減・中間留分在庫は同80万バレル減と、いずれも市場予想を上回る取り崩しであった。

EIAによると、7月7日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.9セント安の1ガロン3.125ドル（119.9円/ℓ）と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比1.2セント高の1ガロン3.739ドル（143.5円/ℓ）と2週ぶりの値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、7月4日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比7基減の425基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年06月29日～07月05日に休止したトッパー能力は75.2万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は235.7万klと、前週に比べ4.2万kl増加。前年に対しては39.3万klの増加。トッパー稼働率は68.1%と前週に対して1.2ポイントの増加、前年に対しては11.7ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

7月5日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油で取り崩しとなり、ジェット、軽油、A重油は積み増しとなった。

ガソリンは164.4万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては3.2万kl少ない。

灯油は207.9万kl、前週差2万kl減。前年に対しては36.7万kl多い。

軽油は165.8万kl、前週差6.1万kl増。前年に対しては23.8万kl多い。

A重油は72.9万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては0.9万kl少ない。

C重油は163.5万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては8万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (7/5)	前週 (6/28)	前週比
ガソリン	1,644	1,666	▼ -22 (-1%)
ジェット燃料	926	898	▲ 28 (3%)
灯油	2,079	2,099	▼ -20 (-1%)
軽油	1,658	1,597	▲ 61 (4%)
A重油	729	722	▲ 7 (1%)
C重油	1,635	1,663	▼ -28 (-2%)
合 計	8,671	8,645	▲ 26 (0.3%)

5 国内/元売会社製品卸価格

7月1日～7日のドル建て中東原油価格は前週比値上りし、為替レートのわずかな円高がこれを若干相殺したが、元売会社の卸建値は値上げされたものと見られる。ただ、7/10からの補助金は、前週横ばいの定額10.0円(揮発油・軽油、灯油・重油の場合は5.0円)が続くので、補助金込みの実質卸価格も値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

7月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円安の173.6円、軽油も同0.6円安の153.8円、灯油は18%ベースで同6円安の122.5円(1%ベースでも0.3円安の122.5円)。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油も3週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上りが3県、横ばいが2府県、値下がり42都道府県だった。全国最安値は愛知県の167.2円、その次は兵庫県と埼玉県の167.6円であった。他方、最高値は鹿児島県の183.9円。最も値上がりしたのは佐賀県(同1.1円高)、最も値下がりしたのは山形県(同2.4円安)だった。

次回調査時(7/14)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/7)	前週 (6/30)	前週比	直近高値
レギュラー	173.6	174.2	▼ -0.6	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	122.5	122.8	▼ -0.3	08/8/11 132.1
軽油	153.8	154.4	▼ -0.6	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第15号)の公表は、7/18(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。